

洋書輸入協会会報

VOL. 8

NO. 12

(通巻92号) 昭和49年12月

理事会報告

11月11日(月)

- (一) 10月分収支計算・予算対比表の検討、承認。
- (二) 第6回洋書まつりについて洋書交換委員長(日賀村山氏)から報告あり、承認。(別掲記事参照)
- (三) 英国出版社訪日代表団の日程について渉外委員長(U S A C O山川氏)から報告あり。
- (四) 11月29日(水)懇談会を開催し、その上、上記代表団のレセプションをひらくことに決定。
- (五) Richard Abel 社の最近の現況について紀伊國屋相良氏から報告あり。(海外ニュース参照)
- (六) 内外の情勢について討論。
- (七) その他。

11月26日(火)

- (一) 27日の懇談会のレセプションの運営について打合せ。

洋書交換委員会だより

第6回洋書まつり

昨年度は日時の関係もありお流れになりましたが、予算の戻入と云う形で協会財政に貢献しました。本年はご承知の通り、11月1日、2日と2日間古書会館に於て第6回洋書まつりを開催しました。仲々良い日時がとれませんでした。幸い青空市と並行してとれたのは丸善、福田サンの尽力のおかげです。

今までとちがった特色としては、まづ労力と時間のかかるカタログの不発行、会場の古書会館の都合で前例の3日間でなく2日間しか開けなかったこと、レプの方々の多数の参加出品のあったことです。準備には数回委員会の会合

(一) その他。

12月4日(水)

英国出版社代表団からの要請により、同団の Malcolm Rowland (Export Secretary, Book Development Council) 氏および British Council の Maughan 氏と理事との会合がひらかれた。議題は Consolidated Sea Freight で、来年の2～3月頃今春にひきつづいてイギリスで郵便料が大幅にひきあげられる(2ポンドー約1キロー16ペンスが40～50ペンスになる)ので、日本の各社向けの荷物をひとまとめにして貨物にして送り、郵便料値上げの打撃を避けたいとの提案であった。質問や日本の実状について説明がおこなわれた結果、この方法をうけられる可能性はあるが、現実問題としては直ちに実現できるとはいえず、日本側でこんども研究をつづけることとなった。

を重ね、PR関係は国際書房、ポスター、チラシ作成はトツパン、会場関係は原書店と夫々ご苦勞をおかけしました。はじめの締切で出品参加社数が意外に少なかったのでレプへの出品勧誘、更に会員に働きかけた結果、参加社は会員14社(37ブース)、レプ10社(7ブース)となり何とか会場を埋められました。

「玉のような男の子」とかって本会報で形容された恰幅の良い原 J r. の指揮のもとに、手馴れた委員の方々がそれぞれの分担をなしとげ、天候も幸いし、何の故障もなく所期の目的を遂げられたのはひとえに出品各社の協力のたま

理事会報告	1
洋書交換委員会だより	1
(洋書まつり)	
洋書交換委員会の宛名カードについて	2
文化厚生委員会だより	2
(ボーリング大会)	
ゴルフコンペ	2

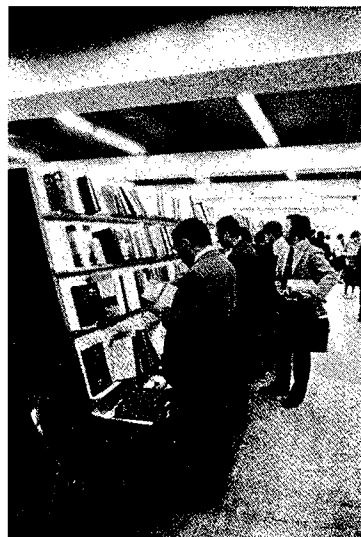
理事会と英国出版社代表団との懇談会	3
懇談会報告	3
英国出版社代表団歓迎会	3
フランス郵便ストについて	3
パリの一日	4
洋書こぼれ話	5

外国出版社の紹介 No. 33	6
(R. R. Bowke Co.)	
海外ニュース	6
ニュース	7
通関統計	7
総代理店ご案内	7
広告 (U.P.S.)	8

ものです。もっとも、手馴れない委員がキャッシュレジスターをつとめた結果、売上記録より現金が多いと云う有難い(?)ミスもありましたが。

某社が辞書を余り安く値付けしたので、他社がそれを買って自社のブースで倍にしても売れると云い出し、慌てて値段をつけ変えられたり、たく山買ったからまけろ、家まで届けろと云うしつこい外人サン、辞書類を全部古本屋サンに買占められあとから来られた会員の女子社員サンに文句を云はれたりいろんなことがありました。

併し何と云つても予想外だったことは、カタログを発行しなくとも、たった2日間でも今まで以上の成績があったということでしょう。次回への反省としては、技術的なことは兎も角として、やはり出品社のより多い参加ともしっかりとしたPRによるより多い人集め以外には成績をあげる要素はないと思はれます。数多い委員会の中でも協会財政に些かなりとも寄与できるのは当委員会だけとするならば、何とかもっと規模の大きいものにして予算をカバーするどころか、出品会員のみなならず協会へより多い利益をもたらすものにしたいものです。もっとも本質的には各社とも出品すべきデッドストックなくてこんな会をしないのが一番望ましいんですが。(日賀・村山記)



洋書交換委員会の宛名カードについて

洋書交換委員は合同セールのPRの為、プリント用宛名カード1,706枚を新調いたしました。全国の大学、短大、工業高専の附属図書館、医学部等の独立した図書室全てを含みます。協会員でのご希望の方は、国際書房(292-

4951) 仕入課鈴木あてご連絡下さい。プリント実費は1枚1円総額1,706円になります。但し分割は不可能で全部プリントのみです。印刷業者が発送も引受けますが、その場合は別途手数料が必要です。(洋書交換委員会)

文化厚生委員会だより

第1回ボーリング大会

レーンを確保するのも一苦労だった、ひと頃のブームも去って、申込者が予定数を満すかどうか危ぶまれた。幸い11月22日、後樂園ボーリング場に於て13社46名という多数の参加を得て開催の運びとなった。

文化厚生委員長洋販の渡辺氏の挨拶の後各レーン4名づつに組まれた腕に覚えの面々直ちに競技に入る。

参加者は男性3対女性1の割合であり、各レーンに紅一点を配するには好都合である。何しろ初めての顔合せのため、各人の力柄のほども不明。取り敢えず女性には一律10点のハンデを付することにした。

午後6時半から8時半まで、3ゲームの熱戦を繰りひろげた結果、最高得点を挙げたのは意外にも女性軍の洋販北島洋子さん553点。そう言えば正にプロ級の華麗なフォームであった。次点は白水社の小泉昇さんの518点となる。

次回の大会は各性別によるハンデは全く無用のようである。付設レストランで授賞式を行いジュースで乾杯の後散会。

初めての大会がまざまざの盛会であったのに気を良くして、幹事役の酒井氏(トツパン) 向山さん(第三書房)と子ども来年以後も毎秋の恒例にしては——と話し会った。

秋山(白鷗洋書)記

「ゴルフコンペ」

第8回72会ゴルフコンペは去る11月21日紅葉たけなわの五日市カントリー倶楽部で総勢16名の参加で開催された。好天に恵まれ快適な1日であった。入賞者は下記の通り
優勝 鍵谷(ノベルティ) 41.51=92 (22) 70

準優勝 上杉(UPS) 52.45=97 (21) 76

3位 鶴(東亜ブック) 47.60=107 (30) 77

尚今回のコンペの際ゴルフダイジェスト社の取材があり年内発行の週刊誌に掲載されることとなった。(幹事記)

理事会と英国出版社代表団との懇談会

11月26日（火）10時から約1時間半の間協会側からは理事会員、英国側からは団長スブラッグ氏（ABP）を含め18名の団員のほかブリティッシュ・カウンシルからモーン氏出席のうえ、青山の英国輸出マーケティング・センターにおいてひらかれた。

まず団長スブラッグ氏から挨拶があったのち、協会を代表して丸善福田忠氏が歓迎の挨拶をしたのち、わが国の経済情勢について簡単に説明した。ついでスブラッグ氏から1975年2～3月に予想される英国における郵便料値上げについて説明があったのち、代表団の幹事（Book Development CouncilのExport Secretary）Rowland氏と協会とが来週これへの対応策を協議してほしい旨の提案があり、了承された。

そのごは主として代表団からの質問に答えるという形で日本側からの説明がおこなわれた。とくに問題になったのは、価格、ディスカウント、米国書との関係、インフレーションの影響、マーケットの状況などであったが、双方ともフランクな態度で話しあい、相互理解を深める上に役立ったと思われる。

さいごにスブラッグ氏から謝辞があったのち、山川渉外委員長（USACO）が挨拶をのべて閉会した。

懇談会報告

11月27日（水）4時から5時30分まで日本出版クラブで約40社の会員の参加をえて、洋販渡辺正広氏司会のもとに懇談会がひらかれた。

まず丸善福田氏が開会の挨拶をのべ、とくに現在のきびしい経済情勢にどう対処するかについてアピールされた。

理事会の活動については、福田、紀伊國屋相良の両氏があたり、ついで文教（紀伊國屋吉本氏）、洋書交換（日賀村山氏）、会報（極東書店一條氏）、通関（丸善柴田氏）、雑誌資料（国際書房服部氏）、渉外（USACO山川氏）、文化厚生（洋販栗原氏）の各委員会報告があり、三洋出版鈴木氏からは業界の現状打開についての意見がのべられ、また三省堂書店野村氏からは同書店と出版社である三省堂との関係について説明があった。

英国出版社代表団歓迎会開催

11月27日（水）懇談会終了後11月25日～29日の英国図書展に参加のため訪日中の代表団歓迎会がひらかれた。団長Spragg氏（ABP）の謝辞、団員紹介、折柄訪日中の汎文社（ソウル）柳益衡氏の挨拶につづいて、内外交易山縣氏の音頭で乾盃したのち、7時30分までなごやかな歓談が随所でくりひろげられた。



今回のフランスの郵便ストに対処し、「フランス出版物の入荷遅延についての御連絡」を作製し、会員各位に発送致しました。ここに全文掲載致します。

フランス出版物の入荷遅延についての御連絡

謹啓 毎々格別の御引立を賜り厚く御礼申しあげます。

さて、すでに新聞等で報道され御承知のこととは存じますが、フランスにおいて10月17日より郵便ストが継続されており、日本とフランス間の郵便物は現在発送されておられません。

従って同日以降の書籍および雑誌の発注と、フランスからの発送は相当遅延する見込で、殊に雑誌年間予約のお客さまには、ご迷惑をおかけすることと存じますが、何卒事情ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

昭和49年11月15日

東京都中央区日本橋1丁目20番3号
藍沢ビル302号室

洋書輸入協会

電話 (271) 6901

フランスの郵便ストライキは6週間つづいたのち事実上終結し、12月2日から業務が再開されることとなり、従ってわが国との郵便連絡は回復しました。しかし、これまでの滞貨を片付けるのに2～3カ月を要するとのこととす。

パリの一日

極東書店 渋谷 広和

6:30。起床、夜中の12時までムーラン、ルージュにいたのですがにねむい。今日はこのヨーロッパ旅行最後の日なので、バッグの整理に時間をかける。

7:30。旅行中ずっと同室だった水田氏（三洋出版）と食堂におり、パンと紅茶の朝食、みそ汁のない朝食にもやっと馴れてきた。

8:30。ホテル、ブルガンデイを出て、マドレーヌよりメトロに乗る。初めて乗る地下鉄、カルネ（10回分のキップ）を8Fでもとめて乗るが東京よりわかり易い。

9:00。ガンベッタ着。駅を出ると大きな門が見える。パール、ラシェーズの墓地である。ショパン、ビゼーの墓もあるとのこと。門前で花束を買い、ペリコミュン「連盟兵の壁」を目あてに歩く。マロニエ、プラタナスの落葉をふみしめ、人気のない墓地に行く。墓守の老人に会う。「ボンジュール、ムッシュー」と場所を聞く。そこには「1871. 5. 21—28 のコミュンの死者に捧げる」という銅板の碑銘があり、弾痕も見える。連盟兵が最後の戦いをいどみ全員虐殺された壁の前には訪れる人々の花束が沢山たてかけられている。そばにはレジスタンスで倒れた若者のモニュマンもある。そして、アンリー、パリピュス、モリス、トレーズの墓石も。

10:30。パレ・ロワイヤルでメトロをおり、ルーブル美術館へ行く。大きいだけでなく入口があちこちにあり水田氏と待ち合せる正面入口がわからない。この中庭には写真屋がいてうるさくつきまとう。どうせ全部など見れないので、ダ・ビンチだけでも「モナ・リザ」の部屋に行き、ガラスの箱に顔を押しつけるようにしてみつめる。厳重な警備も見られない。洋販の来海、白井氏、東光堂の武田氏に出合う。

11:30。水田氏と会えないことが気になり、印象派美術館へといそぐ。コンコルド駅を出た頭上に美術館がある。伊藤氏（紀伊國屋）が「すばらしい」を連発しながらチュイルリー公園を歩いて行く。マネー、ルノアール・ピサロ、ドガ、ルソーなど画集でおなじみだが、原画を見た感激はひとしお。印象派はなぜか日本人の感覚にうたえるようだ。原画を見た後に記念絵はがきを買う気にはなれない。

13:30。ホテルにもどる。出払って誰もいない。近所のレストランは昼食時でいっぱい。フランス語でなにを注文してよいかもわからず、空腹をかかえ再びメトロへ。水田氏に会えないのがうらめしい。

14:00。ボン・ヌフ駅を上り、一番古くて新しい橋ボン・ヌフを渡ると目の前に、「しんばし」という看板。とびこんで「てんぷら定食」、エビ天がうまい。

15:00。サン・ジェルマン・デ・プレ教会は中世史の古文書でおぼえていた。11世紀の鐘楼は壁がくずれ板で押

えられている。飾りけのない素朴な建て方、聖堂内はまっ暗である。サン・ミッシェル通りへ出ようと歩くと広場にぶつかる。ギリシア風の大きな円柱のある建物、自分はいまどこにいるかわからない。地図でやっとサン・シュルピス寺院らしいと見当がつく。アメリカ人の学生が地図を見ながらやはり首をひねっている。

16:00。どう歩いたかわからぬがオデオン座の入口に立っていた。入口の円柱の基部にはナチと戦って倒れた人の銅板の碑銘があり、花が植えられている。フランス革命以来のパリの人々の心意気にふれる思い。

ソルボンヌをへてやっとサン・ミッシェル通りに出る。東京の神田というところか。古本屋、洋服屋などの店の他に露店も出ている。突然P・U・Fの売店にぶつかる。本のデパート、会計のお嬢さんがガラスのスタンドに入っているのが面白い。

16:30。いったんボン・ヌフにもどり、ゲネゴー通りの社会科学の古書店マデスに行く。時間が遅いためか人声はするが戸は開かない。かえりはセーヌ左岸の古本の露店をのぞくが、観光客用の地図や絵が多くいやになる。

17:00。この頃、デパートの中をトイレを見つけようと走り廻っていた。日本のデパートと違ってトイレは全くナシ。メトロの入口でおばあさんに0.5F払って目的を達成。

エトワールでメトロをおり、シャンゼリゼ通りをコンコルド広場まで散策としゃれこむ。

17:30。なぜか自分がヌイイーという所にいることに気づく。今まで得々と歩いたシャンゼリゼは反対の方だったのだ。何度目もの失敗。あきらめ切れぬ気持ちを抱きつつマドレーヌに帰り、日本人向けみやげ物店「ペンルックス」で安物のハンドバックを買い、ついでに食料品店をのぞく。パリの店にはワインは山のようにつまれてるのに、ブドーをはじめとする果物はしなびたものしかない。

19:00。東京レストランで、参加者全員の別れの宴。ロンドンで別れたきりの人もいる。みんなヨーロッパ各地での仕事を終えて帰ってきたのだろう。旅の話で席がわく平岩団長のあいさつ。互いに無事を喜びつつビールでスキヤキをつつく。

21:30。まだ一日はある。伊藤氏とモンマルトルの丘へでかける。昼間見た画家の広場を通過してサクレクール寺院。ここからパリの全景が見えるはずだが、曇り空で駄目。100年前に建ったという寺院では一日の仕事を終えた近所の人々が集ってミサを始めていた。巨大なドーム、ささやき声さえ聞えない夜中の教会でいっしんに祈る人々とともに席につく。目をつぶると3週間にわたる旅の日々のことが目に浮ぶ。神を信じない自分が何か祈りたい気持ちになるのは旅での単なる感傷か。

23:30。ホテルへ帰着。疲れた一日。さようならパリ。

明治期洋書輸入起原と

丸善の創業ごろの挿話

八 木 佐 吉

洋書等の輸入業として本年一〇六年目を迎えた丸善の創立者は、明治の先覚福沢諭吉門下の偉才早矢仕有的（ハヤシユウテキ）である。天保八年（一八三七）八月九日に美濃の笹賀村で生まれ、父を山田柳長（医師）、母をタメといったが、その誕生直前に父が歿したので、母の養父早矢仕才兵衛（同村の庄屋）の養子として育てられ、早矢仕の姓を名乗った。

有的はつとに医を志し、はじめは大垣で、のちに名古屋で医学を修め、嘉永七年（一八五四）に業を終えて帰郷し十八歳で開業した。診療に従事すること三年、その才幹は村民の高評をえたが、さらに医学の研究を重ねる決心をして、安政六年に江戸に出た。当時高名の蘭学医坪井信道（二代）に師事し、みずからも両国薬研堀に医院を開いて診療に当った。のち、推されて美濃岩村藩松平能登守のお抱え医師となったが、なお蘭学だけで満足せず、英学をも志して谷信敬の英学塾に通った。

慶応三年二月福沢塾に移り、はじめて福沢諭吉から親しく教えた受けるにいたった。それから程なく福沢の広大な理想に感銘し、わが国開明促進のために西欧文明の移入を速かにすることの急を思い、世界を相手の商業道に転身する決意をしたのである。まず明治二年（一八六九）一月一日、数人の同志とはかり横浜に書店を開いて屋号を丸屋商社とし、名義人を丸屋善八（仮空の人名）と名付けた。丸屋善八＝（即ち丸善）の創立である。その理想と決意は創業宣言書「丸屋商社之記」に余すところなく尽くされている。

まもなく、書籍のほかに薬品の販売、診療所の開設にも手を染め、翌明治三年には東京へ進出した。日本橋に支店（丸屋善七名義で）を設け、洋書等の輸入の他に新たに唐物店（洋品）裁縫店（洋服）指物店（西洋家具）などを開き、明治七年までに大阪・京都・名古屋にも出店した。このように次々に主要都市に発展はしたものの、草創期における経営上の苦心はひとかたならぬものがあつた。

丸屋商社発足に際して、当時まだ一般には理解のうすかつた株式会社組織を、日本で最初に取り上げた先覚でもある。有的はまた金融会社や積立金組合をつくり、明治十二年には丸家銀行、十三年には貿易商會を創立した。また、横浜正金銀行の設立にも参画し、丸善が替店を興すなど、その経営はじつに縦横多角にわたつた。同じく十三年二月には本店を東京に移し、このとき資本金十五万円の有限責

任会社とし、名称を丸善商社と改めた。

しかし、このころにきざしたわが国一般の不況は日に深刻となり、有的のほか幹部の必死の努力にもかかわらず、明治十七年に丸家銀行はついに破産し、これが波及してすべての事業は倒壊した。ただ丸善商社だけはからくももちこたえ、有的はその責を負って社長の座を退き、もっぱら社運の立て直しをはかった。

明治二十二年の憲法の發布、国会開設のあと、同二十六年新商法が施行されるに際し、資本金貳拾万円の株式会社に変更されて、今の名称丸善株式会社となった。それから日清戦役後の一般好況の波に乗って、銀行破綻の傷も漸次に癒えたが、このころから、有的の体は衰弱をきたし、ついに明治三十四年二月十八日異数の業績をのこして、六十四歳で歿した。いま、雑司ヶ谷の墓地に眠っている。

明治六年刊の「丸屋商社之記」の社員名簿に、社長として早矢仕有的とならんで中村道太（ミチタ）の名がある。

中村は創業時には表だって参加していなかったが、ここに姓名があらわれる。妙なことだが、社長が二人いたわけである。就任期は、はっきりしないが、明治五年（一八七二年）入社と同時に就任し、以後、明治十三年に責任有限丸善商社と組織替えしたころまでと考えられる。

中村道太は、旧吉田（豊橋）藩士で、藩の勘定方哲兵衛の長男、天保七年三月十日（一八三六）の生れである。父親の血すじのためか財政的の才能に富んでいた。文久三年（道太二十七歳）江戸に出て、ただちに鉄砲洲（いまの聖路加病院附近）の福沢諭吉の塾に入門した。しかし兩人の交わりは師弟としてよりは、むしろ、信頼し合った友人としてであつたようである。明治五年に中村屋とよぶ洋品店を芝日蔭町に開いたが、翌々七年にはこの店を丸善に合併している。おそらく、福沢の推輓で、早矢仕有的に協力し、その経理面の才能を活かして丸屋の経営にあたつたのであろう。西洋式の簿記に詳しく、入社の翌年（六年）に福沢の「西洋帳合の法」の講習所を東京丸屋のなかに開いて一般の生徒を集めてブックキーピングの講習をもしている。商法講習所（のちの一橋大学）の開設に先立つことである。

福沢の明治六年一月六日付書翰中に（滋賀県令松田道之宛）「私に一友人あり、名を中村道太と云う旧藩士族にて当時は横浜の丸屋の社中に入り、商売を業とし、弊塾出版局にも関係あり、此人頗る帳合に委しく、丸屋社中の商売諸店合して一年十万両よりも多く、其帳合の法全く西洋流

に従い、拙訳帳合の法に拠て其出納を司る者は中村一名なり、若しも此度御本県の会計法御改革にも相成候ハバーク月許り同人を御頼被成候ては如何、本店の商業も此節ならば一ヶ月位は此人なくして可なり（後略）”とある。この文章で中村の社中での役割もわかり、福沢の人物評価もたいしたもの、いかに中村をみていたかが知れる。

中村は有司の他と共同して、福沢、大隈（重信）の助力をえ、外国為替の取扱いを邦人の手に収めるため、明治十三年二月、横浜正金銀行（いまの東京銀行）の創立発起人の一人となり、その初代頭取に就任した。この時で丸善

の現役は一応辞したとみてよい。しかし以後も永く後援とアドバイスを続け、丸屋銀行の倒産（明治十七年）の際にも整理人中に加わって力を尽している。正金銀行頭取は数年で辞し、いろいろの事業に当たって縦横の活躍をした。

しかし子宝にめぐまれず、晩年は淋しかった。諸事業からも手をひき、和歌・茶道等の趣味に老を慰めるのみで、世人からもほとんど忘れられた存在のなかに、大正十年一月五日東京で八十六歳の一生を終えた。豊橋の光円寺が菩提所である。中村はまた、先年豊橋市で胸像をたてその功を推薦された。

外国出版社の紹介 No. 33

R. R. Bowker Company, Xerox Education Company.

1180 Avenue of the Americas,
New York, N. Y. 10036

洋書を読もうという人なら、読みたい本の著者名と書名、できれば刊行年と出版社も正確に知っていて当然とも思うのですが、案外そうでないのが現実です。しかし《Books in Print》と併せて《Subject Guide》があれば、かりに注文者からの情報が不正確でも調べが付き、正確な業務で応えられます。

Bowker社は1872年に創立され、同時に《Publishers Weekly》を発行し、翌1873年に《Publisher's Trade List Annual》を出版したのが現在のR. R. Bowker社（当時はPublishers Weekly発行所）の始まりです。更に1875年《Library Journal》を創刊するにおよんでBowker社は、アメリカ図書館界・出版界に確固たる地歩をきずきました。

Richard Rogers Bowker (1843-1933年)はニューヨークのEvening Mail紙、のちTribune紙の学芸欄編集にたずさわっていましたが、American Catalogueシリーズの創刊者でもあったFrederick Leyboldtが新たに事業をおこすやこれに参加し、Publishers Weekly, Library Journalの編集をはじめ各種参考図書の出版を推進してきました。1876年のアメリカ図書館協会設立にも中心的役割をはたしています。

正式にR. R. Bowker社と改名されたのは、Bowkerが名実ともにLeyboldtから同社を受継いだ1911年のことです。

Books in Printの創刊は1949年で、すでに70年の歴

史をもつPublisher's Trade List Annual 1948年版の別冊索引として刊行されたのが最初です。それまでは、アメリカのほとんどの出版社を網羅していましたが、各社のカタログを社名のアルファベット順に綴じ合わせただけで索引がついておらず出版社がわかっていないと検索もできない状態でした。出版社さえわかれば、それぞれ出版社自身が作ったカタログですからもっとも信頼できる情報の集大成であるといえます。Publisher's Trade List Annualは当初全1冊、6,000ページ、重さ20ポンドもある大冊でしたが1947年に2分冊になり、現在では全7冊になっております。ちなみにBooks in Print 1974年版は全4冊、3,600社の418,000点を記載しています。

アメリカ出版界唯一の業界紙ともいえるPublisher's Weeklyを先端とするBowker社の情報・出版活動は、国内出版物にとどまらず、世界の逐次刊行物にも及び、Ulrich's International Periodicals Directory, Irregular Serials and Annualsなどの評価もますます高まっています。

なおBowker社の事業の発展と成功がいかにもアメリカらしい現象なら、同社が今日Xerox社の系列下におかれたのもくアメリカらしいという気がします。

同社が販売面だけでなく制作面でもイギリスに拠点を設けるなど、再編を試みているようです。日本でもユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社を総代理店に指定したのはその一環ともいえましょう。Bowker社の出版活動、ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社のサービスに期待するところ大きいものがあります。

さいごにUPS社が作った《Bowker 1975・利用のしおり》を、図書館司書や、図書館司書養成講座などにご利用をおすすめいたします。

海外ニュース

『アベル社買収さる』

ポートランドのRichard Abel & Companyは最近財務面の行きづまりが伝えられていたが、このほどシカゴの

Follett Corporationに接収されるべく話がまとまり、11月1日に両社から発表された。現在FollettはAbelの財務経営面を調査・検討中であるが、資本や組織にはかなりの編成替えがあろう。詳細は90日以内に発表の予定である。

Abel社はこの間に、出版社への支払いを銀行に保証してもらうなど手配し、顧客からのオーダーを、再び迅速か

つ完全に果しうるようにするとのことである。

Follett Corporationは、101年の歴史をもち、出版、卸、小売、製造の部門を有しているが、Abelと競合するような部門はない。Abelは創立以来20年にすぎないが、図書館のニーズに応える独特なサービスにより急速な発展をとげてきた。近年ではヨーロッパや日本にも進出、国際的な最大の図書館への書籍供給者として話題を呼んでいた。

Follettはこの独特なAbelの性格に魅力を感じ、AbelはFollettの安定した財政面と業界での長い経験に惹かれたようである。

(Publishers Weekly, 11月14日号より)

——紀伊國屋書店提供——

ニ ュ ー ス

- ☆米国 Wiley社のMr. R. B. Ellis 11月上旬来日。
 - ☆仏国 Éditions Gallimard の Mr. A. Campbell 11月中旬来日。
 - ☆英国 Inspec の Mr. Oliver Ball 11月中旬来日。
 - ☆ British Publishers Mission が11月23日より12月7日の間訪日、英国トレードセンターにおいて五日間の英国書展を開催すると共に、J B I A理事会との懇談やレセプションなど、多彩な活動を行った。
- 使節団のメンバーは次の通り。

Name & Position	Compay
N A Jayasekera Managing Director	Abacus-Kent Ltd
Adrian Stephenson Marketing Director	George Allen & Unwin Ltd
John Spragg, MBE MC Director Overseas Marketing (Mission Leader)	Associated Book Publishers Ltd
D Kingham International Marketing Director	The Butterworth Group
Miss Priscilla Oakeshott Rights Sales Director	Cambridge University Press
Christopher Helm Joint Managing Director	Croom Helm Ltd
M A McLennan Export Marketing Manager	Faber & Faber Ltd
Ken Pounder Marketing Director	Hutchinson Publishing Group Ltd
Miss Betham Hughes Foreign Rights Department	Longman Group Ltd
M E Foxell Managing Director	Lutterworth Press
Miss June S Eastor Sales Manager	Mansell Information/ Publishing Ltd
D W Russell Export Sales Manager	Michael Joseph Ltd
Miss Ilinca Bossy Foreign Rights Department	Oxford University Press

J A Allen
Export Sales Manager

Richard Bailey
Sales Manager

Darley Anderson
Senior Editor

Mrs J Zangwill
ELT Editor

T D F Anderson
Senior Editor

Malcolm Rowland
Export Secretary
(Mission Secretary)

Penguin Books Ltd

Routledge & Kegan Paul
Ltd

Society for Promoting
Christian
Knowledge & Sheldon
Press

Thomas Nelson & Sons
Ltd

Sheldon Press

Book Development
Council

通 関 統 計

外国貿易概況(大蔵省関税局編、日本関税協会発行)
1974年8月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和49年8月	\$7,607,000	1月以降累計	\$53,414,000
昭和48年8月	\$5,786,000	"	\$44,644,000

(註) 此の統計は、C I F価格で10万円以下の少額貨物は含まれない。

総 代 理 店 ご 案 内

次の通り日本総代理店の案内がございました。
お手許の Agent List にご記入願います。

(株) 丸 善 ☎ 272-7211

All Publications of American Mathematical Society

Dynamic Properties of Solid. 3 Vols. Ed. by
G. K. Horton and A. A. Maradudin.

Vol. 1. Crystalline Solids, Fundamentals.

'74 680 p. ca ¥31,500

Vol. 2. Crystalline Solids, Applications. '74 in prep.

Vol. 3. Crystalline and Noncrystalline
Solids. '75 in prep.

Finite Element Methods in Engineering.

Proceedings of the 1974 International Conference
on Finite Element Methods in Engineering, held
at The University of New South Wales, Australia.

Aug. 28-30, 1974. Ed. by V. A. Pulmano and
A. P. Kabaila. '74. 840 p. (Unisearch, Kensington,
Australia) ca ¥14,200

Manual of Clinical Microbiology. 2nd ed.

Ed. by E. H. Lennette, E. H. Spaulding & J. P.
Truant. '74. 970 p. (Am. Soc. for Microbiology)

cloth ¥9,200
paper ¥6,900

Tobin, G.-Essays in Economics.

Vol. 2: Consumption and Econometrics.

(North-Holland) ca ¥17,400

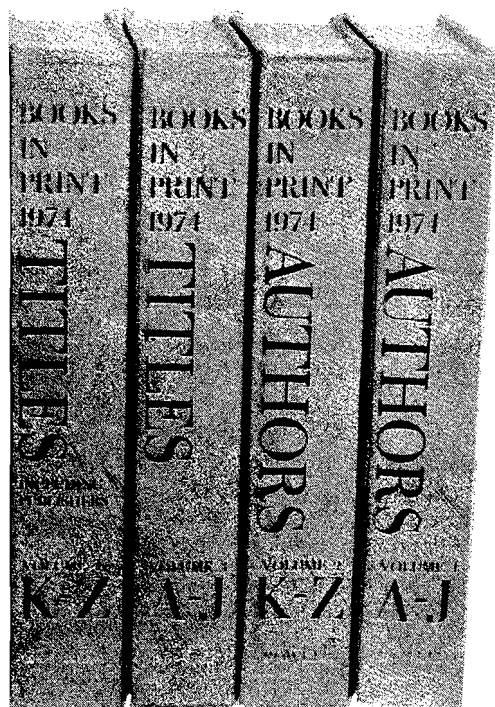
三 洋 出 版 貿 易 (株) ☎ 669-3761

Nathan S. Kline, S. F. Alexander & A. Chamberlain
Psychotropic Drugs
(Van Nostrand Reinhold)

1974年刊 ¥4,790

1月中旬
入荷

BOOKS IN PRINT 1974



全4冊 28,600円(予定)

●新着在庫から

Bowker's Medical Books In Print 1974
12,320円

Business Books In Print 1974
14,520円

Irregular Serials and Annuals. 3rd ed.
21,120円

Ulrich's International Periodicals
Directory. 15th ed. 22,000円

Publishers' Trade List Annual 1974
22,000円

日本総代理店

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

東京都千代田区麹町4-1 志村ビル / 電話 (03) 262-5278

編集室から

師走の風がひとしを身に沁みて、1974年も終わろうとしております。お互いに顔を合はせれば「不況」だの「値上げ」だのといった言葉が口をついて出る昨今ですが、このよ

うな時こそ、相互の人間関係を密にして、難かしい時代を乗り切ってゆきたいものです。会報が、そのような面ですこしでも皆さまのお役に立つことが出来たら——。というのが我々会報委一同の心からのねがいです。

どうか、よいお年をお迎え下さい。

(KS)